

ますね、その、いい悪いじゃなくて、そもそも無理と。結婚して二つの世帯をつくる気はないので。もう一つあるのは、B氏のおっしゃったみたいに子どもが小さいときには家にいてほしいっていうのがあるんですけど、僕はB氏と違うところといえば、できる限り子どもがいない間は外に出てほしいとは思いませんね。外のかかわり合いは持っていてほしいかなと。

H氏 小学校中学年ぐらいまでは家にいて、そこから働き始めるぐらいがいいんじゃないのかな。

— H氏は、中学校ぐらい。

H氏 いや、母ちゃんは、僕が小学校の3年生ぐらいから。

— 働いて。

H氏 働き出しましたね。

C氏 小さい子どものころと中学校のとき、その思春期を迎えるころっていうのは、多分かなり子どもの的にも不安定で微妙なんで、だれか・・・(笑) いや、微妙なんだろうという、はたを見ても自分の経験でも、だからその微妙な変化を、僕が残るか嫁さんが残るかはそれはわかりませんが、だれか1人が見てあげたいなというのはありますよね。

2つ目が、「専業主婦否定・外での就業重視」である。

【就労グループ：外での就業希望の意見】

G氏 僕絶対、専業主婦はやめてほしい。子どもが1歳2歳というときに外に出るとは思わないんですけど、子どもいないのに専業主婦は絶対やめてほしい。

— G氏がやめてほしい理由は何ですかね。何で。

G氏 経験というか、上の人とか経験者からしか聞いたことないんですけど、でも何か家に帰ると、1日ずっと家にいるわけじゃないですか、専業主婦は、テレビ見て、何かして、帰ってきた瞬間にガーッとしゃべるわけじゃないですか、しゃべる相手がいなくて(笑)。家に引きこもること自体あまり健全な生活と僕は思わないんで。

— G氏さんのお母様はちなみにどういう就業形態。

G氏 B氏とは全然違って、僕は幼稚園のころからカギっ子で、

— お母様は、G氏が小さいころは働いて……

G氏 働いてた。まあ、パートとかですけど、ずっと働いて、もうずうっと、幼稚園のころからずうっと。まあ、職場は幾つかかわってますけど、そういった感じで今も働いています、ずうっと。

— じゃあ、やっぱり働き続けてたほうがいいっていうふうには思ってます？

G氏 それは親がそうだったからっていう気はしないんですけど、パートナーがずっと家にいるっていうのは、

— 嫌だっていう感じですか。

G氏 1人で家で何してるのって。

— なるほど。

E氏 でも親から受ける影響って強くないですか。

G氏 でもいなかったから、寂しかったよ、結構。

E氏 自分がイメージする何か自分の家族の生活とかって、結構自分が経験したものが一番やっぱりイメージしやすくって、それってやっぱり両親であったりするんで。

— ちなみにE氏のお母様は。

E氏 おれの母ちゃんは、僕が幼稚園に上がるまでは家にいたんですけど、幼稚園上がった瞬間に、獣医の資格を持って、幼稚園上がるまではやめて、上がった瞬間に大学の獣医科病院にまた研究員みたいな感じで入って、小学校行ってる間ぐらいずうっとそこで勉強し直して、小学校上がっていつぐらいだったっけな、家で開業したんですよ、家の隣の建物で。だから走っていけばいるけども、基本的にはカギっ子みたいな感じだったんで、ちょっと特殊な例かもしれないんですけど。

— で、どういうのがいいって思いますか。

E氏 僕は働けばいいと思いますね。
D氏 これはだから、幼稚園とか通い始めたら子どもが帰ってくるまでにはどっちかが戻っていてほしいというのがありますね、だから。
G氏 おれもそう思う。
D氏 だから、やっぱり家に1人でいさせるっていうのは嫌ですよ。
— D氏は、働くのは。
D氏 働いてほしいと思います、だから。
— ということは非常に限定された時間の働き方をしてほしいということですか。
D氏 というふうな形になると思います。それは別に。
— 実際は。
D氏 実際はそうだと。別に僕がパートでもいいんですよ、養ってもらえば(笑)、それは。
— なるほど。
D氏 働かないで食えて、まして働かないで食えていけるんだったら、それは。
G氏 主婦やりたくなってきた。
— でも本気で思っていないですよ。
D氏 まあ、そうですね。どちらかといったらきっと僕が終日働いて、奥さんになる人は。
— 家に入って。
D氏 家に入ってほしいというか、ずっと専業主婦というの嫌ですね、どうしても、それはやっぱり外の。
— 専業主婦は嫌だ。
D氏 にはなしてほしいとは思わないです。何らかの形で外の世界と接触を持ってほしいと。
— 専業主婦が嫌だという人ほか、・・・嫌だ。
A氏 僕も嫌なんですよ。
— A氏も嫌ですか。
A氏 彼と意見似てるんですけど、やっぱり幼稚園に入る前まではやっぱり働いてほしくないっていうか、子どもの面倒を見てほしいんですけど。入ってからは基本的に、もう5時とかに終わる仕事はやってほしいんですよ。というのは、やっぱり労働者って同じ立場からのもの話し方ができるというか、対等の立場で多分話せると思うんで、一方で専業主婦になっちゃうと、やっぱりこっちが働いて頑張ってるのに、何で、何かさぼってんな的な・・・ので。(笑)
だから対等の立場っていう意味で、やっぱり働いてほしいなという。働いてる人の目線でものを話してほしいというか、というのがありますね。

専業主婦否定・外での就業重視派は、家庭内の主婦の家事活動にたいして、あまり価値をおいていない。その代わりに外での就業について、重要なこととしてとらえている。子どもが小さいときには、誰かが面倒をみないとならないために、家庭内にいてもらいたい、その時期が過ぎたら、就業してもらいたい、これが外での就業に対する肯定派の意見である。

これに対して、専業主婦肯定派（というか家事労働重視派）の意見は次のようなものがあった。

【就労グループ：家事労働に対する肯定的意見】

— B氏 どうですか、こういう専業主婦には否定的な意見を聞いて。
B氏 わかんないですね。専業主婦がいいってわけじゃないです、子どもが帰ってきたときにいてほしいというだけなんですよ。うん。ただ問題となる、今対等な立場でものを言うといったときに、もうそれは対等じゃないですか、

働くといった意味では、

— 家のことをやるということも同じようにということですね。

B氏 そう、それが問題だと思うんですよね。労働時間って違いますよね。その上で同じふうにやってと言われたときに、家事を、それで実際できるのかっていったらできないと思うんですよね。

— なるほど。

B氏 そうすると何か女の人のほうに負担がいつているみたいな感じにはなるじゃないですか。

こうした家事労働重視派の意見は、家事労働について外での就労と同じような価値を持ったものとしてとらえている。高度経済成長期に確立された性別役割分業について、シンプルに評価をしているといえる。

現実的に、共働きのカップルにおいて、男性の家事従事の時間が非常に短く、片働き世帯とほとんど違いがない（参考表）。すなわち、共働きを行っていて女性が外で働いていても、男性が家事に従事し家庭内の労働を担う構造になっていないので、上記のB氏の、「何か女の人のほうに負担がいつているみたいな感じにはなるじゃないですか。」という指摘はあるいみ正しい。

参考表 世帯の家族類型、共働きか否か、行動の種類別総平均時間（週全体）—夫・妻（時間、分）

世帯の家族類型 共働きか否か	仕事	家事	介護・ 看護	育児	買い物	1次 活動	2次 活動	3次 活動
夫								
夫が有業で 妻も有業（共働き）	7.01	0.10	0.01	0.03	0.11	10.14	8.10	5.36
夫が有業で 妻が無業 （夫婦と子供の世帯）	6.51	0.08	0.01	0.09	0.14	10.15	8.17	5.28
夫が有業で 妻も有業（共働き）	7.13	0.09	0.01	0.05	0.11	10.06	8.28	5.26
夫が有業で 妻が無業	7.14	0.07	0.01	0.13	0.14	10.06	8.47	5.07
妻								
夫が有業で 妻も有業（共働き）	4.29	3.15	0.04	0.18	0.35	10.02	9.05	4.53
夫が有業で 妻が無業 （夫婦のみの世帯）	0.03	4.41	0.07	1.20	0.51	10.18	7.04	6.37
夫が有業で 妻も有業（共働き）	4.41	2.39	0.04	0.03	0.32	10.26	8.22	5.11
夫が有業で 妻が無業	0.05	4.06	0.05	0.09	0.52	10.48	5.18	7.54

総務省統計局「平成13年社会生活基本調査」

こうした共働きカップルの、家事労働の非対称性は、従来の性別役割分業の名残と、パート等非正規雇用に従事する場合が多く男女の賃金格差が生じる可能性が高いことなどが背景として考えられる。子どもが小さいときには、女性が家にいるというパターンを選択する場合、い

ったん労働市場から退場し、復活するときにはパートという就業形態のパターンが多いが、こうしたケースだと、男性が外で働いた場合と女性が外で働いたときの経済的パフォーマンスの違いも影響があり、こうした問題が生じる。

しかしながら、近年みられるような、雇用の不安定化は、女性の就労をリスクヘッジとしてカウントする考え方をもたらしている。

【就労グループ：自分の就労リスクに対するヘッジとしての妻の就労】

— あともう一つ考えていただきたいのは、もし奥さんが働かないとやっぱりお金の問題が、収入がその分少なくなると思うんですけど、世帯収入としては、それは特に問題とは考えないですか、皆さん。働いて……。

B氏 別にお金じゃなくて。

ー お金じゃないところで働いたほうがいいということですか。
 G氏 それは働かなくても養える。
 E氏 それは多分皆さんが周りを見ていてそう思うのだろうと思って、僕なんかも、すぐにも飛び出そうとしてるから、絶対嫁にも働いてほしいなと思いますよね。
 ー 飛び出そうっていうのは(笑)。会社をやめるっていう意味ですか。
 E氏 いつクビになるかわかんないですから、僕の場合は、みんなと違って。
 G氏 飛び出そうじゃない、飛び出さされるんじゃ(笑)。
 E氏 だから、うん。
 ー ただそういう。でもそれは飛び出すためには2人で働いていたほうが。
 E氏 やっぱ、断然いいですよ。

上記のように、妻の就労について、「お金のために(リスクヘッジのために)」働いて欲しいという意見と、「お金でない何かのために」働いて欲しいという意見がある。

ここまでみてきたように、就労しているグループにおいて、結婚意欲はある程度共通であるが、家事に対する価値観の違い、そして就労リスクの認知の違いから、妻の就労希望には違いがある。またこうした意見の違いをもたらしたものとして、「準抛集團としての育ちの家庭」が見えてくる。自分の経験(親の就労パターン)については、関係ないという意見もあるが、それを準抛して意見を述べている場面が多々あった。

こうした、就業グループの意見と、学生グループの意見の共通点、相違点をあげてみる。

まず共通点としては、子どもが小さい頃は誰かが面倒をみななければならないと思っていること、一部の意見に専業主婦志向があることなどが挙げられる。また同時にアンチ専業主婦も存在している。

相違点としては、「誰かが面倒をみないとならない」場合に、自分がみてもいいという意欲が、学生グループに多々見受けられる点が指摘できる。下記に取り上げたように、自分が専業主夫になっても良いとの発言は散見され、子育てに対する意欲の強さが現れている。

この違いが、世代の違いなのか、就労経験の違いなのか、弁別はできないが、学生グループにおいては、自分以外の誰かが子育ての責任者となるということが前提となっていない。

【学生グループ：専業主夫希望】

f氏 子どもを持つなら、専業主婦になってもらったほうが……。
 ー いいと思う？
 a氏 僕も理想的にはそうです。
 ー それは、a氏君は、子どもと切り離しての……。
 a氏 いや、やっぱり子どもを想定したときには、という感じですね。
 ー ほかの人は子どもを持つにはどうですか。専業主婦がいい、じゃないほうがいい？ 奥さんも働いているほうがいい？
 c氏 好きにやってくれと。(笑)

―― でも、奥さんが専業主婦じゃなくて共働きだったら、やっぱり自分が育児や家事というのはそれなりにやっていかないと、多分回らないというのが想定されるんですけど、それでもどっちでもいい？

c氏 もう自分の子どもですから。

―― 自分の子どもだから、どっちでもいいというのがc氏君。じゃ、e氏君はどうですか。奥さんが働いて、自分が早く帰ってきて、専業主婦の奥さんよりはやらないといけないかもしれないですけども、どうですか。

e氏 専業主婦は、むしろ嫌だというほうかもしれないです。ただ、それは自分の価値観というのでしょうか。それとも変わっていくのか。自分が専業主夫になるかもという意識も含めて……

―― 自分が家に入るというのも考えていると、それを含めて嫌なんですかね？

e氏 え？

―― それもあり？

e氏 それもあり。奥さん働いてください。私、子どもの面倒を見ますという……

―― ……というのもあり？

e氏 ……のもあり。

―― 逆は？ 逆もあり？

e氏 それの逆が多分ない。おれが働きたくないという……。(笑)

―― ……いま男性の専業主夫というのもありだとか、働きたくないかもという意見が出ましたが、同じような、それも自分がオーケーだという人？ a氏…… さっき専業主婦がいいと言った……

a氏 それは自分が主夫でもいいし……

―― 片方がということ？

a氏 そうですね。どっちかが。

―― 子どもの面倒を見るためにということですね。

a氏 それもちろん含めて家事全般として。僕は……

―― 分担したほうがいいのかということ？

a氏 そうです。社会的な自己実現よりも抽象的なものだけど、家族というのが大切だと思うんですよ。だから、社会活動というのは最低水準の生活ができればいいわけで、就職にしろ何にしろ、とにかく片方は常にいられて、もう片方は常にそれをサポートできる状態であればいいなとは思っています。ただ、現実問題それが可能かどうかというのは、また別な問題になってきてしまいます。

―― ほかに人はどうですか。自分も含めて、男性の専業主夫はあり得ると。そういうのもありでしょうか。

b氏 自分は働きたい。

―― b氏は働きたい。共働き。

d氏 あまりイメージしていないけど、どうしても専業主婦をやりたいというなら、やってもらってもいいと思うんですけど、専業主婦に対してあまりいいイメージがなくて、あんまり健康的じゃない気がして……

―― どんなイメージですか。不健康……

d氏 もうちょっと社会に対して働きかけが……。仕事をしたほうがいいんじゃないかなという気がして。仕事はしていたほうが、家事とかもシェアできるし、仕事をしている上での痛みとかもシェアできるから、やっぱり共働きのほうがいいような気がします。

―― その共働きというのは、男性と同じような働き方をすることをイメージする？ それとも、パートタイムで〔10時～4時とか？〕お昼に5時間だけ、保育園か幼稚園の送り迎えには間に合う程度の共働きを意味しているのか、それとも普通に企業に勤めてフルタイムで…….というのを意味している？

d氏 それもあり得ると思うんです。僕がイメージしたのは後者でした。会社。

e氏 aさんの価値観は社会的価値観より家族的価値観を重視したいけど、僕のほうはむしろ逆で、家族的価値観より社会的価値観のほうを重視する人間なので、もしも奥さんがいるとしたら、奥さんにも社会的一員であることをやっ

てほしいなと…….

— しかしながら、自分が専業主夫もありと？

e氏 あり。(笑)

e氏 結婚するならば、多分奥さんの意思のほうが第一にするだろうなというのがあって、奥さんがバリバリすごい勢いで働きたくて、家族にあんまり手をかけたくないというなら、おれ専業主夫になっちゃってもいいかなというような気もあって。でも、別に普通にシェアしてくれるぐらい余裕があるんだっただらば、シェアしたいなという、そんな感じで。

母親の就業と問2(4)子どもが小さいときに母親が仕事をすることと性別のクロス表

性別	母親の就業	結婚前からずっと勤めを続けてきた	問2(4)子どもが小さいときに母親が仕事をすること				合計
			まったく賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	まったく反対	
女性	母親の就業	結婚前からずっと勤めを続けてきた	21 35.6%	21 35.6%	15 25.4%	2 3.4%	59 100.0%
		子どもが大きくなってから再就職した	10 11.0%	20 22.0%	44 48.4%	17 18.7%	91 100.0%
		ずっと自営の仕事や内職を続けてきた	2 10.0%	7 35.0%	10 50.0%	1 5.0%	20 100.0%
		ずっと家事・育児をしてきた	5 6.3%	18 22.8%	47 59.5%	9 11.4%	79 100.0%
		その他	5 12.2%	6 14.6%	22 53.7%	8 19.5%	41 100.0%
		合計	43 14.8%	72 24.8%	138 47.6%	37 12.8%	290 100.0%
男性	母親の就業	結婚前からずっと勤めを続けてきた	17 22.1%	26 33.8%	28 36.4%	6 7.8%	77 100.0%
		子どもが大きくなってから再就職した	8 9.9%	19 23.5%	50 61.7%	4 4.9%	81 100.0%
		ずっと自営の仕事や内職を続けてきた	1 3.4%	10 34.5%	17 58.6%	1 3.4%	29 100.0%
		ずっと家事・育児をしてきた	3 2.9%	26 25.2%	60 58.3%	14 13.6%	103 100.0%
		その他	2 5.1%	13 33.3%	18 46.2%	6 15.4%	39 100.0%
		合計	31 9.4%	94 28.6%	173 52.6%	31 9.4%	329 100.0%

なお、自分育ちの経験と子育て感への影響について今一度考えてみる。上記の図表は、母親の就業形態別にみた、「子どもが小さいときに母親が仕事をすること」に対する評価（VOXY 調査）である。これを見ると、母親が仕事を続けている場合、子どもが小さいときに母親が仕事をすることにたいして肯定的な見解をもつ割合が高いことがわかる。

2-2. 育児への参加意欲

子どもが欲しいかどうかたずねると、大多数の対象者が子どもを欲しいと考えている。VOXY調査でも全体の83.4%が将来子どもが欲しいと回答している。これを、子どもとの接触頻度別にみると、接触頻度が高いほど、子どもが欲しいと回答する傾向が、男女ともにある。

また、主体的な育児参加（配偶者と同じくらいもしくはそれ以上育児を行うこと）について

みると、男性については、子どもとの接触頻度が高いほど、主体的な育児参加の意欲が高い。

このようにアンケート調査の結果では、主体的な育児の参加の意欲についてたずねているが、ではこれを深堀するとどのような意見があるのだろうか。

子どもとの接触と 問8. あなたは将来子どもがほしいですかと性別のクロス表

性別	子どもとの接触頻度	問8. あなたは将来子どもがほしいですか			合計
		はい	いいえ	わからない	
女性	頻繁にある	39 95.1%	1 2.4%	1 2.4%	41 100.0%
	たまにある	105 86.8%	4 3.3%	12 9.9%	121 100.0%
	ほとんどない	80 78.4%	12 11.8%	10 9.8%	102 100.0%
	まったくない	22 84.6%	1 3.8%	3 11.5%	26 100.0%
	合計	246 84.8%	18 6.2%	26 9.0%	290 100.0%
男性	頻繁にある	28 93.3%	1 3.3%	1 3.3%	30 100.0%
	たまにある	120 81.6%	6 4.1%	21 14.3%	147 100.0%
	ほとんどない	95 82.6%	7 6.1%	13 11.3%	115 100.0%
	まったくない	30 78.9%	4 10.5%	4 10.5%	38 100.0%
	合計	273 82.7%	18 5.5%	39 11.8%	330 100.0%

子どもとの接触と 問11. あなたは主体的に子育てをするつもりがありますか。(この場合の主体的とは、例えば育児負担の割合が配偶者と同じくらいもしくはそれ以上を担うことをいいます)と性別のクロス表

性別	子どもとの接触頻度	問11. あなたは主体的に子育てをするつもりがありますか。(この場合の主体的とは、例えば育児負担の割合が配偶者と同じくらいもしくはそれ以上を担うことをいいます)			合計
		はい	いいえ	わからない	
女性	頻繁にある	37 97.4%		1 2.6%	38 100.0%
	たまにある	92 89.3%	1 1.0%	10 9.7%	103 100.0%
	ほとんどない	78 97.5%		2 2.5%	80 100.0%
	まったくない	21 95.5%		1 4.5%	22 100.0%
	合計	228 93.8%	1 .4%	14 5.8%	243 100.0%
男性	頻繁にある	24 85.7%	2 7.1%	2 7.1%	28 100.0%
	たまにある	90 75.0%	16 13.3%	14 11.7%	120 100.0%
	ほとんどない	69 72.6%	14 14.7%	12 12.6%	95 100.0%
	まったくない	18 60.0%	4 13.3%	8 26.7%	30 100.0%
	合計	201 73.6%	36 13.2%	36 13.2%	273 100.0%

結局のところ、誰が子どもを育てることを想定しているのか。

「2.結婚意欲と配偶」の最後で指摘したように、学生グループにおいては、カップルの就労パターンとして、一時的な専業主婦容認の意見が散見され、この

グループの子育てに関するコミットメント意欲の強さがみられた。とはいえ、全員が強いコミットメントを希望しているのではない。

【学生グループ：子育て意欲】

— 子育て自体もやってみたいかと？

e氏 はい。……やっぱり自分に子どもができたとしたら、生まれたその子にちゃんとかかわってあげたいと。

— 子育てしようと思っているかというところなんですけども、自分の子どもなんだから、自分でちゃんとコミットしてできる限りやりたいという意見がちらほら出てきましたが、どうですか。やっぱり子育てなんか夫婦でどっかがきちんとやれば、コミットしなくてもいいという考え方があるかもしれないし、自分の子どもなんだから自分ができるだけやってもいいという考え方があるだろうし、子育てに参加するということについてどうかなあというふうに思っているか。c氏どうですか。子育てするつもりがあるのかという……

c氏 ありますけども、自分が専業主夫みたいになるのは……

— 嫌だ。どういうことを今イメージするという……

c氏 社会と……。子育てですか。

— 例えば、働きながら育てるというのを、できることをやるというのはやりたい？

c氏 そうですね。

— 例えば、土日とかは自分がメインでやるというんでも、全然（オーケー）？

c氏 それは別に全然いいですけど。

— すごいやる気？

c氏 いや、やる気というか、時間の使い方を知らない。土日が使い切れない。それなら自分の子どもといたほうが……。

— やるのはいい？

c氏 はい。

— ほかにどうですか。例えば、子どもの面倒を見るために、保育園のお迎えが自分の担当だとなったとして、8時までには保育園に行かなければいけないというような状況も受け入れるだろうかと？

c氏 朝早いのはちょっときつい。（笑）

— 夕方。お迎え。

c氏 ……

— 例えば、そのために、ほかの人は残業してても、そういうのもあるかもしれないということ。

c氏 多分場合によりますよ。

— でも、一応やる気はある？

c氏 毎日というのはちょっとあれかもしれないですね。（笑）

— 毎日行くことはちょっと嫌という……

c氏 いや、毎日行くことで何か会社の中で気まずいなというのがあったら、毎日やるというのは……

— そうすると、奥さんがやっぱりそういうのをやる……

c氏 いや、そうですね。半分半分ぐらい……

— すると、朝はだれが行くんだということが……

c氏 朝たまに行って、夜はたまに行くぐらい（笑）。

— ご飯つくったりするの？

c氏 ああ、いいですよ。

— ほかに人はどうですか。

b氏 いやあ……。やりますね。

— やる？ 何か……

b氏 何というか、あんまりわからない。想像がつかない。どれぐらい自分が……ギブアップするかもしれない。

— ほかに人はいかがですか。

f氏 まだ働いていないから、リアリティーがないというのがあるから。それが前提で……。

— 子育てにやる気は一応あるという感じ……。

f氏 今のところは。

— 別にないという意見も排除するつもりはないんで、ないという意見が……。

f氏 半分半分ぐらいというのは、多分自分の中ではちょっと無理。

— f氏は無理と。

f氏 (中略)自分の中では働きたいというのがあるから、どっちかというところ奥さんにやってもらいたいなというのがありますけど、もちろんやれるところはやります。

— やれるところはやる。あんまり子育てについては……。子育てというよりは働らくということが第一になるということですかね？

f氏 そっちが第一ですけど。うち、お父さんがあんまり手をかけてくれなかったというか、深夜何時に帰ってきて朝早く出ていくみたいな人だったんで、あんまりそういうのは嫌だというか……。

— それなりにかかわってはいきたいという感じですかね？

f氏 そうですね。親に対する不信感が微妙に残っていると思っているから(笑)。

— f氏は不信感が微妙に残っている。だから、かかわりはしていきたいという……。

f氏 思いますけど。

— 今、育児はいいと言っていたんですけど、家事とかもいいですか。

f氏 家事もちろん同じ分担。

— 半分半分は嫌だけどという？

f氏 いや……

— できないんじゃないか……

f氏 できないんじゃないか。

— 手伝えるってごみ出しぐらい？

f氏 もちろんそんな感じ。むしろ家事も、ご飯をつくるのは好きなほうなんです。自信はないですけど。

上記のように、現実には働いていないから将来どうなるかわからないとエクスキューズしつつも、妻との育児の分担の困難さを指摘する声は上がった。コミットメントに意欲的な人と、意欲的でない人があるが、主体的にコミットしたいという意見が無いわけではない。

すでに働いているグループに子育て意欲を聞いてみると、メインは女性で、そのサポートという形でのコミットメントをするつもりがあるという意見が多かった。具体的には土日など、自分の手が空いているときにできる範囲で手伝うという意見である。つまり、主体的な育児は目指していない。

【就労グループ：子育て意欲】

— 生まれたばかりのときに、ふだんは奥さんが日常の面倒を見てることを前提として、その土日、自分が休みのときに奥さん並みにやるつもりのある人。— あっ、すごい！ こんなにいる。5人は、もう置いてってもらっても同じぐらいやってもいいっていう。

G氏 そのぐらいできるようになりたいっていうのも。

C氏 そう、そう。勉強したい。勉強はしますし。

G氏 願望的なところは、
 ー ー やりたい？ やる気はありますか。
 C氏 とうか、育児っていうか家事をやってあげたい。育児、ただあまり。
 ー ー 家事をやってあげてもどっちもいいんですけど、やって、やりたい？
 E氏 でもあれだよ、絶対土曜日12時まで寝られないよ、そしたら。
 C氏 まあ、それでも、いや。
 E氏 7時ぐらいに起きなきゃいけないんだよ。
 C氏 いや、嫁さんのためだけじゃなくてさ、自分もその子どもの、その成長
 でそういう時期っていうのは多分ほんのちょっとしかないんだろうから。まあ、
 長いのもかもしれないんですけど、それは経験したいなとは思いますがね。
 ー ー C氏は自分のために育児をやってみたいということですか。
 C氏 自分のためと相手のため。二つ込み込みです。
 ー ー どうですか。ほかの方、何で育児を、それやってみたいでしょうか。
 G氏 そういう意味では能動的ではないかもしれないな(笑)。そういう意味
 ではちょっと義務感はあるかもしれない。仕事をして、まあ、仕事は大変だ
 と言いつつも、ねえ、相手は生き物を相手にして、そっちのほうが多分スト
 レスは大きいと思うし、仕事をしてるっていうのも、何かだべっているときも
 あるわけで、そういうことであれば、まあちょっとは、日ごろ帰って、飲んで
 帰ってくることもあるから、ちょっと申しわけないから、じゃあ土日ぐらいは
 やるよと。
 ー ー ほう。というつもりが(あると)。
 G氏 つもりです。

また就労グループにおいては、男女の子育て役割の違いについての意見が多
 く出た。一方で、学生グループにおいては、男女の違いの意義を(従来の性別
 役割分業の時のようには)、感じないという意見が出た。

【就労グループ：男女の子育て役割の違い】

H氏 何か母親の子育てと父親の子育ては違うべきだと思っていて。
 ー ー どうですか、ほかの人。今、まあ、でも将来は相談に乗ってあげられる
 ような父親の子育てっていうのはそういうのだと。その父親と母親で子育てが、
 子どもに対する役割が違うっていうふうな意見ですね。それはどうですか、
 やっぱり男の人と女の人では違いますか。お父さんの役割お母さんの役割って
 いうのは。
 B氏 基本的に一緒にはなれないっていうの、まずそもそもあるじゃないです
 か。おっぱいあげられないですよ、そもそも。その時点でもう違うじゃない
 ですか。
 ー ー B氏はもう全然、一緒にはなり得ない。
 B氏 なり得ないですね。一緒のことはできる、近くすることはできますけど、
 全く一緒はできないと思います。
 D氏 同じことをしてあげても多分、違うんだろうなっていう。同じ抱っこ一
 つでも、お風呂に入る一つでも、ことをやってでもきっと一緒にはなり得ない。
 ー ー 一緒にはなり得ないと、D氏。それは一緒ではないんだけど、どっ
 ちがいいっていうのもあるんですか。どっちがしたほうがいいっていうのもあ
 ると思いますか。
 D氏 子育てっていうことを考えたら、僕は母親には勝てないと思うんです
 よ。父親と母親じゃ同じことをしたとしても。
 ー ー 勝てない。
 D氏 勝てないとうか、やっぱり母性とかそういうのが全然違う。
 ー ー ということは、母親がやったほうが望ましいってことですかね、それ
 は。

D氏 望ましい……。まあどっちかが……
 ー だれかがやらない
 D氏 基本的にだれかがやらなきゃいけないようになったら、やっぱり母親のほうが
 いいと思いますね。それは。
 ー でも事情があれば父親がやってもいいっていう考えですかね。
 D氏 例えば奥さんが死んじゃったとか、そういう話になったら。
 A氏 極論（笑）。
 ー 極論、まあね。
 D氏 そういう状況だってあり得る話ですからね。
 ー なるほどね。あと何かありますか。父親と母親で子どもに対する、子
 どもに関して違うって。
 C氏 小さいころ、男親と女親っていうのは多分子どもに対して違う見方を提
 示してあげることっていうのは、すごい大事なことだと思うんですね。同じよ
 うな形をすることは無いと思うんですけども。もう一つあるのは、さっきずつ
 と話の中でも、子どもってやっぱり親が一番影響を与えることなんですね。じ
 ゃあ子どもが親になったときに、じゃあ、女の子だった場合、子どもを育てら
 れない女の子にするのか、それとも子どもを育てられる女の子にするのかとか
 いうのが大きいと思うんですよ。B氏が言ったように身体的に女の子はおっぱ
 い出るとか、子どもを実際に産むとか、そういうことがあることは前提として
 あるわけなんで、それは覆せないですね。そしたら、やっぱり自然のその法則
 からすると、女性がメインで男は補助になるのかなと。
 ー 思いますか。でも土日はかわってあげるつもりはある。
 C氏 それは、負担感の分散じゃないですか。
 ー それをねらいとして。
 C氏 今の分散という、同じことをかわってあげるというのは育児という、た
 だ泣き叫んでる子どもに対しての処理の話であって、子どもが育ってきたら H
 氏の言うように、父親が相談役になって、おふくろが細かい私生活のいろんな
 ことやってるといえるのは、それはあるかもしれないけども。

【学生グループ：男女差についての意識】

g氏 よく言う、男は外に働いて女性が家を守るという感覚はない人が多いんじ
 ゃないですか、おれらの世代だと。そういうふうに教育はしているくせに、社
 会で受けるギャップが突然あるから、何かその教育が生きてない。そういう考
 えで高校とかで授業に出ていると、頭は普通になる気はするんだけど。まだ働
 いていないから自分もわからないけど、多分全然そういうふうな教育になれな
 いから……。
 d氏 むしろ逆にそういうことを言っているおっさん連中がいると、頭かたいな
 と思っちゃうかもしれないです。だけど、もしかしたら、そういうふうに言っ
 ているおれらの意見というのは理想論的なものかもしれないし。現実には今の社会
 で働いている人間が無理だと言っているんだとして、その社会が変わらなかつ
 たら、やっぱり理想だけで終わっちゃうのかと思います。だから、何とも現実
 にはない意見になっちゃうのかもしれないですね。

この他に親として、「子どもがやりたいことはすべてやらせてあげたい」とい
 う意見が多くあった。こうした、「瑕疵のないおや」を目指す志向は、子育ての
 経済的負担にもつながっており、子どもを持つことのハードルをあげている可
 能性がある。

また少数ながら、反対に、親が子どもの範囲はある程度決めることができ
 るという意見もあった。

【就労グループ：子育て観】

E氏 子どもにはやりたいことをやらせてあげたいと思います。(後略)

— 子どもが望むことはなるべくかなえてあげたいということですか。

E氏 だから、その本質によりますけどね。本質っていうか、やりたい、例えばラジコン欲しいとか言ったら、「ふざけんな、てめえ、外で走れ」と(笑)。

E氏 ファミコンは目によくないからやらせないです。

— 例えばすごくお金のかかるお稽古事(けいこごと)とかはいいんですか。

E氏 それだったら、もう真剣にやって、その世界をきわめろと。

— 例えばお金のかかる留学とかしたいとか。

E氏 やってこいと。そのかわりなんか絶対つかんでこいよ。つかんでこないで帰ってきたら、おまえ、わかってんだらうと。

— じゃあ子どもには、もうできる、そのものがよければ、希望がいいと賛同できればできるだけやってあげる、かなえてあげる。

E氏 そうですね。多分子どもも成長していく過程で多分いろんな年があると思うんですよね。例えば女の子だったらわかんないですけど、ピアノやりたいとか言い出すのかもしれないし、そしたら最初のその初めての段階で、じゃあやってみて言って、それ挫折するようなら、もう二度とお父さんにこれやりたいって言わせないぐらいの、もうつぶし方をして(笑)。相当本当に自分がやりたい、これを一生やっていくんだってという覚悟ができなきゃお父さんに言わないぐらいの。それを本当に言ってきたんであれば、じゃあ、もう本当、フルフルにもうバックアップしてあげたいなっていう気持ちはありますよね。

— なるほど、どうですか、ほかの。

C氏 僕はちょっと違います。僕は親が、親が介入するのは大学に入るまでだと思ってますんで、大学入ってから、例えばアメフトやりたいとか留学したいっていうのは、それは好きにしたらいいけども、金も全部自分でやれっていうことだけですね。

— その前、大学入る前に、例えばお金のかかる稽古事をやりたいとかっていう場合はどうですか。

C氏 その大学入る前、中学校とか、高校になってくると大分分別ついてくると思うんですけど、中学校の段階で——こっち側が基本的には握ってると思うんですよね。子どもの自我とか個性とかっていうのは、そこまで確立してないと思ってるんで、親がある程度ルール敷くっていう言い方をしますけど、敷いていいと思ってるんで。

— じゃあ、お金がそんなにかからないようなルールを敷くつもりだということでしょうか(笑)。

C氏 だから、そのときの、だから僕のその経済的なキャパシティの中でこっちが判断すると、すべて、基本的に金かかるのはそうだとは思ってるんで、それはもう自分でやれと。で、2人経済的負担で2人ぐらいかなっていうのが、子どもに全部金を使って老後、中高年になったときに嫁さんと自分で好きなことができないっていうのは、それは嫌だって。だから子どもも好きなことをやっていいけど、自分たちも好きなことをやりたいと。だから子どものために全犠牲になる気はないと。

— 全犠牲になるつもりが、ある人はあまりいないかもしれないんですけど、じゃあ。

G氏 僕全部もうやらせたいですね。

— 全部やらせたい。

G氏 全部やらせたい。

— G氏、何で全部やらせたい。

G氏 僕が全部やってきたから。

— じゃあ、もし子どもがいたら全部希望は。

G氏 別にお金を残してあげることも多分しないし、ものを残してあげることも子どもにはしないと思うんだけど、教育とか何かそういう身につけるものっていうのは、残してあげたいなって思うから。ただそれって大学入ってから

何か物事を学べって言うのは、もう人としてでき上がっていると思うから、そういう何かやりたいって子どもながらも思ったものであれば、習い事とかだったらやらせたい。合う、合わないはやってみなきゃわからないものもあると思うから、それも全部やってみればって言う。

――なるほど。どうですか、今の意見は。A氏どうでしょう。

A氏 僕も結構同じで、結構。

――同じって言うのは、G氏と同じ。

A氏 似てますね、やらせたいことは全部やらせてあげたいって言う。

――ほかにG氏と同じの人は。

D氏 僕もそうですね。

――D氏。

H氏 僕もそうだと。

F氏 僕も基本的にはやらせてあげたいと。

――B氏、どうで。

B氏 僕もそうです。

2-3. 育児休業制度の取得意欲

育児休業制度の有無と取得意欲について、就業グループにたずねた結果、育児休業制度はあっても、男性は使っていないという回答であった。「有給休暇もつかえないような会社が育児休暇使うことはできない」という意見をはじめ、育児休業を取得することはあり得ない環境にあるという意見であった。取得の意欲はない。このように制度が整っていても、それを実際に使う環境にないのが現状である。

【就業グループ：育児休業の有無と取得意欲】

――	皆さんの会社には育児休業制度があるでしょうか。ありますか。
G氏	育休はあるよね。
H氏	男にも一応名目上はあります。
――	名目上は、皆さんあるということですが、使うつもりがある人いますか。
H氏	自分がということですか、それとも嫁さんに。
――	自分が。
H氏	自分が。
G氏	あり得ないな。
H氏	ないですね。
――	あり得ない？
G氏	あり得ないですね。
H氏	使うか使わないかじゃなくて、使えない。
G氏	使えない。
――	制度があって、男性でだれか使ってるのを見たこと、聞いたことありますか。
E氏	・・・でだれも1回も使ったことない。
C氏	使ったことない制度ですね。
――	それは何で使ってないんだと思いますか。何で使えないんですか。
E氏	有給休暇をとらせてもらえない会社ですからね。
G氏	たまるだけで減ることはない。
E氏	そうそう有給休暇使えないような会社が育児休暇使えるかっていったら、使えないです。
――	なるほど。
C氏	子どもが生まれましたっていても、会社が率先して、じゃあ育児休暇使っているよってという雰囲気にもならない、まず。
――	ちなみに女性はとってますか。とってる人とか。
E氏	総合職はわかんない。
C氏	総合職とってないです。営業職と一般職（がとっている）。

また、学生グループに将来育児休業制度を利用してみたいかたずねたところ、漠然と、現実の世界では取得しにくい環境（出世に響く心配、取りにくい雰囲気等々）を指摘する声が上がった。育児休業制度を利用することによる、仕事へのダメージをおそれている。

実際に就労していなくとも、上記にある、企業内カルチャーについてはある程度予測をしつつ、制度利用を希望しているという状態である。

【学生グループ：育児休業取得の意欲】

— たったいま育児休業制度の話が出て、働くという話が出たんで、テーマ4にかわって、皆さん、自分がバリバリ働くつもりなのかということと、それから、もし子どもができたとしたら、育児休業とかやって自分も子どもを育ててみるということいかがでしょうか。仕事休んで子育て期間を持つみたいな、そういったようなことをイメージできるか。例えば今……というようにことを知りたいのですが、自分が育てる、a氏はどうですか。

a氏 制度的に確立されていれば使えるとは思いますが、ただ日本の場合、ものすごくそれを暗黙の了解で使わないほうがいいという……

— 所得の保障というのは、その期間非常に危うい……

a氏 継続ですよ？

— お金の問題としては多分あるんでしょうが、もしお金を補てんされて、なおかつ働く上で……期間問題なければやってもいいと思う？

a氏 それは当然そうです。

— 子育て自体はやってもいい？

a氏 はい。

— そういふのはあるんですか。

a氏 ある。

— 何年とか何カ月とか、どれくらいだったらできそうですか。半年とか1年とかいろいろ期間があるんです。

a氏 結局、企業が保障してくれる中でできる限りは。

— 3年でも？

a氏 それを保障してくれるんだしたら。

— その後をですね？

a氏 そうです。でも、実際にはそういう保障は多分ないと思います。

— 給料はないな。

a氏 例えば出世とかそういうことに関していえば、まずないでしょうね。

— ないと思うからやりたくない。

a氏 いや、やりたくないとは思わないですけど、現実的にできるかといったら、多分やめる覚悟でやればということだと思えます。でも、1年以内だったら、しっかりそれが保障されているのであれば、もしかしたらできると思えますけど。

— ほかの人どうですかね。自分が子育てをするというのは、会社の制度なんかを利用して、自分が主体的に子育てをする期間を持つようなことをやってみたいと思っている人は？ 今……

g氏 理想では。

— g氏の理想では？

g氏 そうです。それこそ自分の子なんだから、やっぱり仕事をしていたらできない子育ての面とかあると思うんです。それができないと、変な言い方だけど損をしているというか。もちろんそこに大変な面とかもあるのかもしれないけど、逆にそういうことを経験すると、もっと子どもに対しての気持ちとか高まるのかなとも思うし……。ただ、やれる機会があったら、やりたいというのがあるけれども……

— ある程度まとまった1年とかという期間？

g氏 そうですね。ただ、すごい欲を言えば、仕事も休業する前と後とで全く変わらなくやりたいという気持ちはあるので、全く別の次元でこっちもやりたいし、こっちもやりたいという、それが同じぐらいのレベルであるということだから。ただ、それが現実的に可能かどうかということ考えると……

— 無理だろうなというのが……

g氏 両方100で求めているわけだから。となると、制度的にも無理だろうし、制度的に見たら保障があつてといつても、1年間なり何カ月間なり全く仕事をしていないところがあつちゃうと、やっぱりそこに戻って、本当に無意識のところ、難しいところがある。もちろん受け入れる側も、通念として「いいんだよ」という気持ちがこれからすごく普及していったとしても、何らかの

しわ寄せはかかってくる。できないところもあるんじゃないかなと思っちゃうから、そうすると難しいのかな。例えば、完全に休むという制度ではなくて、残業がないだとか、そういう意味での休業というような分野がもっとしっかりするんだったら、それが一番いいのかな。働きながらなんだから、やっぱり保育園なり幼稚園なり……

ー 働いている上でブランクをつくるのが非常に大きくて、……と
っている……

g 氏 ちょっと怖いというか、いくらオーケーだという認識があったにしても、やっぱりゼロがあるわけだから、そこというのはどう考えても消えないんじゃないかなと思っちゃって……。自分がいくら頑張ってもやっぱり知らないところが出てくるわけで、その意味ではすごい怖いと思う。だからこそ、仕事にかかわりつつ、そのかわり方の度合いを、そういう意味での休業というか、ちょっと減らしてあいた時間で子育てするというような形がいいかなと……

ところで、VOCY 調査においては、育児休業制度の取得の意欲をみると、女性の取得意欲は強かった。男性で取得意欲が強い傾向があるのは、1.主体的に子育てをするつもりがあるグループ、2.母親が就業を続けていグループである。こんかいのインタビューでも、就労しているグループの回答の傾向としては、主体的な子育てをする意欲はあまり無く（そういった就労環境にない）、育児休業制度を利用する意欲の非常に低かった。

問11. あなたは主体的に子育てをするつもりがありますか。(この場合の主体的とは、例えば育児分担の割合が配偶者と同じくらいもしくはそれ以上を担うことをいいます)と問34. あなたは、将来育児休業制度(育児休業、勤務時間の短縮等を含む)を利用したいと思いませんかと性別のクロス表

性別	問11. あなたは主体的に子育てをするつもりがありますか。(この場合の主体的とは、例えば育児分担の割合が配偶者と同じくらいもしくはそれ以上を担うことをいいます)	はい	問34. あなたは、将来育児休業制度(育児休業、勤務時間の短縮等を含む)を利用したいと思いませんか		合計
			はい	いいえ	
女性	問11. あなたは主体的に子育てをするつもりがありますか。(この場合の主体的とは、例えば育児分担の割合が配偶者と同じくらいもしくはそれ以上を担うことをいいます)	はい	215	13	228
			94.3%	5.7%	100.0%
		いいえ	1		1
			100.0%		100.0%
女性	問11. あなたは主体的に子育てをするつもりがありますか。(この場合の主体的とは、例えば育児分担の割合が配偶者と同じくらいもしくはそれ以上を担うことをいいます)	わからない	13	1	14
			92.9%	7.1%	100.0%
		合計	229	14	243
			94.2%	5.8%	100.0%
男性	問11. あなたは主体的に子育てをするつもりがありますか。(この場合の主体的とは、例えば育児分担の割合が配偶者と同じくらいもしくはそれ以上を担うことをいいます)	はい	174	27	201
			86.6%	13.4%	100.0%
		いいえ	23	13	36
			63.9%	36.1%	100.0%
男性	問11. あなたは主体的に子育てをするつもりがありますか。(この場合の主体的とは、例えば育児分担の割合が配偶者と同じくらいもしくはそれ以上を担うことをいいます)	わからない	29	7	36
			80.6%	19.4%	100.0%
		合計	226	47	273
			82.8%	17.2%	100.0%

母親の就業と問34. あなたは、将来育児休業制度(育児休業、勤務時間の短縮等を含む)を利用したいと思いませんかと性別のクロス表

性別	母親の就業		問34. あなたは、将来育児休業制度(育児休業、勤務時間の短縮等を含む)を利用したいと思いませんか		合計		
			はい	いいえ			
女性	母親の就業	結婚前からずっと勤めを続けてきた	55	4	59		
			93.2%	6.8%	100.0%		
		子どもが大きくなってから再就職した	82	9	91		
			90.1%	9.9%	100.0%		
		ずっと自営の仕事や内職を続けてきた	15	5	20		
			75.0%	25.0%	100.0%		
		ずっと家事・育児をしてきた	75	4	79		
	94.9%	5.1%	100.0%				
女性	母親の就業	その他	35	6	41		
			85.4%	14.6%	100.0%		
		合計	262	28	290		
			90.3%	9.7%	100.0%		
		男性	母親の就業	結婚前からずっと勤めを続けてきた	64	13	77
					83.1%	16.9%	100.0%
				子どもが大きくなってから再就職した	60	21	81
	74.1%			25.9%	100.0%		
ずっと自営の仕事や内職を続けてきた	24			5	29		
	82.8%			17.2%	100.0%		
ずっと家事・育児をしてきた	81			22	103		
	78.6%	21.4%	100.0%				
男性	母親の就業	その他	27	13	40		
			67.5%	32.5%	100.0%		
		合計	256	74	330		
			77.6%	22.4%	100.0%		

2-4. その他

この他、学生グループから、地域で子どもを育てる重要性について次のような意見があった。

【学生グループ：地域育児】

g氏 僕なんか小さいころずっと共働きで、血縁関係は全くないけれども、知り合いのおばさんという人が迎えに来てくれて、親が仕事から帰るまで、多分8時過ぎとかまでその家に預かってもらっていてということをしていたんで、そういうことがもうちょっとできるようになってくるんだったら……。多分昔は一つの家族が、社会とのいろいろなつながりを持っていたからこそ地域的にできたんだと思うし、それがどんどん孤立してっちゃうと、多分そういうのが難しくなって、保育園に子どもを……。と。でも、実際保育園で遅くまでやっているところがあるかという、いま少ないわけだし、どんどん保育園の数だって、それこそ少子化で少なくなってきたって選べないという状況、入れないという状況があるから、何とも言えないんですけど、どこかが抜けたら、そこをだれかがサポートするみたいな形でやっていると、何とか回るんじゃないかなと思います。

— 例え、いま割と各核家族と公的な正規の保育園みたいなだけで回そうというのをイメージするかもしれないけれども、それだけではなくて、近所のおばさんであったり、何かほかのツール、ほかの手段というの、回るようにすれば……。という……。

g氏 回ります。そこが中心というよりも、それよりもどちらかといったら保育園が違う形に進歩していくことのほうが、やっぱり現実的なものかもしれない。実際知らない人ではないだろうけど、他人に預けて、しかも施設ではなくてというところに預けるといふの怖さは、多分今の世の中あるだろうし、ベビーシッターといっても、例えばアメリカだったら、そこですごい問題がいろいろ起きていてというのがあるから、何とも言えないのかなと思うんですけど、そういった親戚の関係が安全かなと。

a氏 僕は、社会システム的に核家族というのがもはや限界に来ているのじゃないかと思うんです。結局核家族で孤立したり、自分の子どもは自分で育てたいという要求が強いことが、ある意味では少子化にしても何しても問題になると思うんです。

安心した教育システムは何によってもたらされるのかというのは、私立教育でも公教育でもいいとは思いますが、結局僕も含めて親になる人たち、社会人になる人たちがその教育システムの中で何が行われていて、その教育が本当に自分の子どもや社会に生きていく子どもたちにとっていいものなのか悪いものなのかを担保する目であったり、それに対して発言する権利があったり、それによって改善されるようなシステムであることが重要だと思うんです。

そういう意味では、システム的に制度化されている核家族の中で、お父さんとお母さんはいつも笑顔で子どもを見守っているというような理想像は多分近代にでき上がったものなんでしょうけど、すごく新しいものであって、別に普遍的なものではないと思うんで、そういうものにとらわれる必要はないと思うんですけど。

ただ、社会における子どもたちがどういう教育を受けていて、その中でそれがどう改善されていくべきなのかということ、今までは大人たちは自分が働くのに忙しいからとかパートで忙しいからという理由で、そこには目を向けず、いくらお金がかかるかだけの勘定をしてきたという部分があると思うんです。それをもっと中に目を向けて、どういう教育が行われていて、それが本当に子どもたちにとっていい教育なのかどうかについてみんなで議論したり、それに対してどうやったら改善できるかというようなシステムが、社会の中に必要なんじゃないかということを考えて、地域教育的なものをやりたいと思っているんですけど、そういうかわり方がやっぱり……。

— 教育と子どもを育てるということを、地域教育面に関しては親の手に

引き戻すというか、そうやって共有化させてコミットしていくという、お金を払うとかそういうことではなくて、実際に汗をかいてという……

a氏 そうですね. それぞれがコストとしてかかわれる時間を提供することが必要なんじゃないかなと思って.

3. まとめ

ここまで、未婚者の抱いている理想の家族や子育ての関与の仕方などについて、インタビュー調査を中心にみてきた。今回の対象者は未婚者は就労していても学生であっても、総じて結婚意欲もありまた子どもを持つ希望も高かった。(一部そうでない対象者もいた)

彼らの抱く、希望する妻の就業状態は、「家事労働」にたいする評価によって異なる。家事労働と賃金労働とを同等に価値あるものと考え、専業主婦の配偶者を希望するものがある一方、家事労働に対して価値を置かず配偶者に賃金労働を求めるものも多かった。こうした家事労働に対する価値観は、自分の育ち(母親の就業状態など)が影響を及ぼしていると考えられる。またこれとは違った文脈で、自らの就業リスクのヘッジあるいは、「専業主夫」容認を視野に入れた意見など、近年の雇用の不安定化や男女の賃金格差縮小などを背景にした考え方も見受けられた。

子育てに主体的に参加することについては、まず、就労グループにおいては「できるかぎり」協力する＝主体的な育児をめざすものではない。前提として、自分以外の誰か(配偶者)が責任を持ち子育てを行うことがあり、あくまでもサポートを行うというスタンスであった。学生グループについては、専業主夫すらかまわないという意見があるように、幾ばくか主体的な取組意欲が見受けられるが、人によっては、一步引いた参加の仕方しかできないといている。

また、男女で子育て上の役割が異なるという意見が、就労グループから出てきた。これにたいし、学生グループからは、男女の違いとそれによる役割分担について違和感を感じるという意見が上がった。

子育て観としては、「瑕疵のない親」「子どもの望むことをなんでもかなえられる親」になりたいというものが多くを占めた(就労グループにおいて)。「なんでもかなえられるため」には経済的負担に対する備えが必要となり、子どもを持つことのハードルが高くなっている可能性がある。

育児休業制度については、現実にはほとんど取ることはできず、取得もあきらめているというのが現状である。強制的に取得するようにする、罰則規定をつくるなどしない限り、制度の利用は難しい。

4. 参考文献

- 赤川学, 2004年, 『子どもが減って何が悪い』ちくま新書。
岩澤美帆・三田房美, 2005年, 「職縁結婚の盛衰と未婚化の進展(特集 仕事・出会い・結婚)」『日本労働研究雑誌』, 47号1巻, pp.16-28.

内田哲郎，2001年，「父親の育児？：「父親育児推奨論」にみる男性の育児参加の理由づけ」『家計経済研究』，50巻，pp. 32-38.

佐藤博樹，2001年，「日本における「ファミリーフレンドリー」施策の現状と課題」『家計経済研究』，50巻，pp. 11-17.

佐藤博樹・武石恵美子，2004年，『男性の育児休業：社員のニーズ，会社のメリット』中央新書.